人文科教育研究　22　1995年　pp.197－205

版本『絵入百人一首』の合刻作品
――近世期女子教養書として――

藤　田　洋　治

はじめに

『百人一首』の和歌が広く人々に親しまれるようになったのは，おそらく近世期であろうと思われる。中世期以降注釈書が著され，また異種百人一首が作られたこともあろうが，近世期は，出版文化が一般化してきた時代でもあり，もう一方で識字層が大きく膨らんで文学の担い手も大きく広がった時代でもあった。

この時期には『百人一首』の版本も，多種多様のものが出版され，湯澤賢之助氏(1)の調査によれば，1000種近い膨大な数の版本が出版されていることがわかるが，氏の調査に漏れたものや同名異書の存在を考慮すると，その出版された版本の種類は氏の調査の数を更に大きく超えることになる。当然のことであるが，『百人一首』という作品そのものは一つであり，これら多くの版本は，『百人一首』の他に付録として一緒に掲載された他の作品や記事の種類によって，それぞれの個性としているのである。

本稿では，往来物の中では従来ほとんど注目されることのなかった版本『百人一首』を採り上げ，そこに合刻された小さな作品を一覧することによって，主に女子を対象とした教養の内容が近世期という時代の中でどのように変化していったかを考察するものである。ただし版本の書名の膨大な種類に対し，実際現存している版本の種類がどれほどあるのかが未だ判明せず，書名のみが確認できるものも少なくない。本稿は基礎となる大きな流れを資料として提示するものである。

なお，ここでいう『絵入百人一首』版本とは，写本や注釈書，書道用手本を除いた，江戸時代に出版された「百人一首の歌・作者名・作者絵」を載せたもの（資料１，２参照）をいう。一応書道の手本の体裁を取りながら，歌人の肖像画を入れ，上段に小さな作品や教訓などを掲載している一方で，百人一首の歌に関して注釈や訳文を付さないのが普通である。

1

この『百人一首』版本は，近世期においては広く流布していたことが明らかである。しかし，これほどまで刊行されながら往来物として注目を浴びることはあまりなかったと思われる。例えば『日本教科書大系』(2)（往来物編）では『女訓抄』や『女今川』などが中心で『百人一首』には全くと言っていいほど触れられていない。数点の版本を紹介しておられ，往来物が除外したというのではないことは窺えるが，あまりに往来物の幅が広過ぎて，文学書である百人一首までは整

【資料１】『七宝百人一首』

上段は三十六歌仙の解説と人麻呂・貴之の歌。中段は，『伊勢物語』44段後半～47段冒頭。下段は，『百人一首』で平兼盛と壬生忠見（元録11年刊）

【資料２】『小倉百人一首姫鏡』

下段は，藤原道信と右大将道綱母。上段は，折型の例と封書の封じ様。「女文」と女性向けの封じ様であることを明示している。（安永４年刊）

理の対象としていなかったのであろうか。あるいは，入木道（書道）の書という意識があったのだろうか。江戸中期以降は「女今川」や「女用文」，「女大学」などとの合冊という形が特に多く，結果的には往来物の強い影響を受けながらも，この百人一首の版本は往来物として充分な究明が

なされていないものと思われる。わずかに近年丹和浩氏が「『往来物』における七夕の歌—類題和歌集の利用—」[3]，往来物の中の「百人一首」版本の性格や合刻された「七夕歌尽」について考察しておられるのが数少ない研究の一つである。

2

それでは百人一首版本が，何故往来物として研究の対象とならなかったのだろうか。明確な理由はわからないが，一つには近世期の人々の百人一首の版本の捉え方に，その一因があるように思われる。近世期の『書籍目録』における分類が他の往来物とは相違しているのである。近世期の『書籍目録』[4]の記載を見る限り，百人一首は「往来」，「往来并(ならびに)手本」という項には分類されることがなく，他項の「歌書」や「女書」に収録されているのである。「往来」の部に収録されている『庭訓往来』や『式目』などとは，明らかに違った性格の書物として意識されていたことがわかるのである。しかも，その百人一首を収録する項が，江戸初期には「歌書」であったのが，享保14年（1729）刊の『書籍目録』から「女書」へと変更されている。ここで文学書から女性用書道テキストと取扱いに変化が生じている。しかし，この時期に至っても，往来物という分類には加えられることはなかったのである。

近世期の『百人一首』版本の出版を通覧して，湯澤賢之助氏[5]は次のように述べておられる。

> 〈百人一首〉がどのように出版されてきたかを探ってみた。それは前述したように，元禄までは注釈・鑑賞といった受容のしかたが主流であったかと思われる。その出版書の内容がほとんど一致するのは宝暦を過ぎてからであった。そこには文化のあらたな受容層が形成されていったことを，他の茶・花・俳諧の分野における受容層の拡大ということをあわせて考えざるを得ないのである。

この湯澤氏の見解が概括的には肯首されるものであるが，多少の修正が必要となる。元禄12年（1699）刊の『書籍目録』までは確かに百人一首版本は，文学書である「歌書」の項に収録されているが，巻末に付した「絵入百人一首版本合刻作品目録」の１や２で明らかであるように既に元禄期において『百人一首』は女性の教養書となっていたのである。事実１の『七宝百人一首』（以下ナンバーだけで作品を略称する）の跋文に「百人一首は昔より小女(ママ)の手習初めの読みならひとしてあまねく弄びとする，尤もなるかな〈中略〉源氏物語目録歌仙類其外品々女初学入徳門を一冊に合類して七宝百人一首と名付け広め候べく」とあることからも明らかである。こういう風潮の中で，享保14年（1729）刊の『書籍目録』では，文学書という扱いから，「女書」という女性向けの入木道（書道）の書，教養書という認識に変化して行く。そしてこの享保14年の『書籍目録』の「女書」の項には『拾遺百人一首』，『女筆百人一首』，『都百人一首』，『万宝百人一首』など27点が記載される。そのうち所在が明らかに確認できるのは，三本のみで，ほとんどが書名だけ残っているに過ぎないのだが，これほどの百人一首版本が同時期に出版されていたこともまた事実である。

3

多種にわたる百人一首版本の，それぞれの個性を表す合刻作品は，実例の何例かを巻末に示したとおりである。既に女性向けとして作られた１が，全て文学関係の付録を掲載し，２は地名や家柄，暦，男女相性など一般常識的なものを中心としていて，全く傾向を異にしている。そして３以降は，手紙や礼儀作法，生活の知恵までを含んだ幅広い教養を合刻している点では16までほぼ同じ傾向を示し，重複する作品名も多く見られる。４では「百人一首」50丁の他に122丁に及ぶ合冊部分が前後にあり，百人一首そのものより付録の分量がはるかに多くなり，合刻作品など付載された作品は多様に充実してゆく。これら合刻作品の一覧を多い順に掲載すべきであろうが，数量化するには問題があるので，この度は割愛した。例えば，７－１と７－２はともに『若鶴百人一首』である。版元，画工，刊記，大きさなど全て一致しながら，「百人一首」の部分だけ絵と合刻作品が相違していて，これを一つと見るかどうか。また一作品とした場合どちらをとるか，問題が残る。14は同名異版の全く違った作品である。12の場合も煩雑な問題がある。同名同版ながら，77丁から160丁まで三種の版本が存在し，今回は最も丁数の多い版本を基準としたが，どれに基づくかで，作品の数は当然変化するのである。

4

さて，この時期の女性の教養とは，どのようなものだったのだろうか。架蔵本「百人一首」版本[6]の合刻部分に，「諸芸たしなみの事」という項目があり，その末尾が「女子の見給ふべき書」という記事である。

◎女子の見給ふべき書

○女四書　○姫かがみ　○列女伝　○婦人寿草　○小児養育草　○養生訓　○老人やしない草
○女小学　○女大学　○女庭訓　○女今川　○袖珍かな遣　○女教小倉色紙　大冊百人一首なり
○古今和歌集　○後撰集　○拾遺集　右を三代集と云
○後拾遺集　○金葉集　○詞花集　○千載集　○新古今集　共に八代集といふ
此外十三代集合て二十一代集といふ　其外
○伊勢物語　○源氏物語　○狭衣　○清少納言枕草子　○うつぼ物語　○竹とり物語
其外物語日記類数多し

これらの内容を見れば，当時の教養がどのようなものか，一応の推測が可能である。前半，女性向け往来物と，後半，和歌を中心とした文学的素養の二つにこの記事は総括し得るからである。往来物については一方で「女大学」，「女今川」など，百人一首に合綴されてくるもの（７・９・10・15・16）を含みながら，往来物の要素は百人一首版本の，３以降には明確に，２にわずかながらも見ることが出来る。文学作品については全く一致するものではなく，ここに掲げられない「三十六歌仙」や「七夕歌尽（づくし）」などの小さな秀歌撰，『源氏物語』そのものではない『源氏物語引歌』や『源氏香の図』などが版本に多く合刻されている。また和歌作品への比重が大きいことも

特質と言える。合刻部分は，文学に関しては必要な作品を全て揃えるのではなく，そのような作品への足掛かりとなるものという性格を持つものではなかろうか。「石山寺の紫式部の図」「定家像」「和歌三神像」などは，そのような古典教養・和歌・古典作品へのいざないとして，見返しなどに描かれていたのではなかろうか。

5

このように文学作品に他の作品が合刻されて，教養書として受容されることは，近世初期には百人一首に限ったわけではなく，例えば『伊勢物語大成』（元禄10年刊）などがあげられる。しかし，他の作品は百人一首ほど一般化して行くことがなかった。作品内容の重厚さによる違いも考慮すべきだが，百人一首がこのような教養書として流布した要因は，一つには和歌文学の入門書として，文学素養の基礎として最も用いやすかったのではなかろうか。先の「女子の見給ふべき書」の記載も文学面では和歌を中心にしているのである。もう一面として入木道の手本として用いられていたことが他の作品との差になったものと推量する。入木道の手本，書道のテキストであれば，実用書の往来物とともに，より広く字を学ぼうとする人，識字層以外の人をも対象にし得るのである。

百人一首版本は，知識の大衆化に向かう近世期において『女大学』や『女庭訓』などの往来物とは別に，歌書，文学書として出版されたものが，以上に述べてきたように女性用の教養書の要素を取り込み，往来物の性格を付与されて多くの版本となって流布したのである。

以上，百人一首版本の往来物としての面を中心に，合刻作品について略述してきたが，より広く版本を調査し，一方で，合刻された個々の作品についての考察を今後の課題としたい。

注

（1）『近世出版百人一首書目集成』（新典社・平成6年5月刊）この書には『百人一首』の範疇に入ると氏が判断された1700余を収録しているが，本論での考察の対象としない写本や注釈書を含んでいる。なお，管見に及んだ範囲でも2『都百人一首千載襄』は，氏の指摘の他に同一書名の出版物があり，3『増補百人一首』，13『菊寿百人一首千代松』は記載されていない。

（2）昭和43·2～52·3／講談社刊，石川松太郎氏編。別巻Ⅱ「女子用往来物系譜」の年表の第5合本型に5本の『百人一首』版本が記載されるにすぎない。

（3）『学芸国語国文学』第26号（平成6·3）

（4）『江戸時代書林出版書籍目録集成』（慶応大学付属研究所斯道文庫編，昭和38·10／井上書房刊）による

（5）「近世出版書籍目録にみる『百人一首』」（『跡見学園短期大学図書館蔵百人一首目録稿四』昭和63·3／同大学図書館発行）所収。

（6）正式書名は不明，題簽は擦れて判読不可能で，柱刻はなく，序・跋も共にない。大型本で

50丁。江戸中期頃の刊行。婚礼の大意・白粉の事など実用的な教養が多く，文学関係は七夕歌尽・歌がるたの事の二項があるにすぎない。

絵入百人一首版本合刻作品目録

凡例　◎この目録には『絵入百人一首』の近世期版本に合刻された作品名を一覧したものである。版本はなるべく時代的に重ならないように，未紹介のもの，または『近世出版百人一首書目集成』に書名記載があるが内容に差異が認められるものを中心とした。

◎作品名は，版本の表記を尊重し，そのまま記したが，一部仮名遣いの相違や仮名が多過ぎてわかりにくい箇所，旧漢字は，表記を改めた。また作品名を「　」でくくったものは私にその名称を付したものである。

1『七宝百人一首』（元禄11年　1698刊　江戸　柏屋甚四郎）

源氏物語（解題）／源氏物語引歌／三十六人歌合／三十六人女歌仙／歌仙貝／「和歌修辞」／七夕歌尽／伊勢物語（全文）／六歌仙〈以上９点〉

2『都百人一首千載襄』（元禄12年　1699刊　大阪　敦賀屋九兵衛版）

当時禁中図説／「京畿内等名所絵図」（吉田・祇園・清水・上賀茂・下賀茂・稲荷・松尾・野の宮・往生院・二尊院・愛宕山・ひら野・仁和寺・上御りやう・北野・今宮・知恩院・いつきの宮・鞍馬・貴船・ひえい山・他12ヶ所）／「御所・宮家・公卿家別一覧」／御門跡方親王・比丘尼御所・摂家御門跡／天子の御事并禁中の故実／十干十二支／男女相性／六十の図〈以上８点〉

3『増補百人一首』（寛保２年　1742　梅村判兵衛版）

賀茂葵御祭御車之図／定家卿十二月和歌／百人一首読みぐせ／和歌御神住吉景／いせの図／三十六歌仙／源氏香の図・引歌／近江八景／伽藍の銘目利の事／薫物の銘并合やう／女茶の湯立やう并客の事／嵯峨八景／和歌やまと言葉の事／吉野山風景／龍田山風景／女中御所ことばの事／京東山八景／いろはの伝てならひの事／本朝四跡／女文ことば并文封じやう／琴の習ひ方并品々の図／同うら組といふは／女貝おゝひの次第并おこり／年中祝ひ雛祭七夕哥／盂蘭盆会／十三仏の事并五行物語／忌服けがれをつゝしむ事／夫婦相性吉あしの事／女の風俗当世の事／女けしやうたしなみの事／女手道具因縁物がたり／女一生身持特訓／女縁組の物がたり／衣類たちぬいの事／万茶染の類仕やう／萬しみ物油おとしやう／難波八景／和歌のはじめ并五位の事／江戸八景／「色紙短冊書様」〈以上41点〉

4『藻塩百人一首千尋海』（昭和６年　1769刊　皇都書肆／林権兵衛・西村平八など他三名）

本式雛祭由来／和歌三神図／三十六歌仙之図／女通称之故実并ニ衣類餘風（女房といふ事・かみさま・おく様・北の方・姫・姫君の区別・御台所・しんみやう・御はした・眉つくり・歯ぐろめ・髪ゆふ始め・かんざし・女中衣装・かづき・帽子・花の帽子・びらり帽子・わな帽子・さくら帽子・綿帽子・うちかけ・かかへ帯・つけ帯・小袖・袷単物・帷子・手覆・かけ香・とめ木・鏡・手道具・女中仮名遣い・女中詞・女文づくし・歌の書式・文の封じ方）／琴の濫觴／双六の来由／婚姻の和訓／祝言の始／女訓至宝袋／七夕祭の事／月の異名／国土・父母・衆生の恩／女躾

もしほ草／「歌27首」（機・糸・綿・帯・などを題）／鉢かづき姫（上・下　全文）／教訓伊呂波歌／染物秘伝／裁物口伝／心の沙汰／女中進物積方／不成就日・願成就日之事／時刻の事／知死期くりやう／仏神御縁日之定／三国御神事日限（京都・江戸・大阪）／十干・十二支／新六歌仙／三夕和歌〈以上28点〉

5『小倉百人一首姫鏡』（安永４年　1775刊　出版書肆不明）

「紫式部の図」／近江八景の図／百人一首よみくせ／歌の始／五節句の由来／琴之始／貝合事／碁双六／諸国名所橋名歌集図式／伊呂波乃事／和歌乃事／和歌讀心得之事／「手紙文例」（年始の文・同返事・弥生節句の文・同返事・五月節句の文・同返事・七夕祝儀文・同盆に返事・九月節句の文・同返事・亥の子祝儀文・同返事・歳暮祝儀文・同返事）／小笠原流折形／女文の封じ様／女中名つくし／「和裁・裁ち様」／女中詞乃事／当世艶おしろい／しみものおとし／そめもの秘伝／諸病めうやく／七夕祭乃事／七夕哥つくし／琴三絃乃事／願しやうじゆ日／うんこう日／うけむけの事／守本尊を知る歌／不成就日之事／暦の中段をしる事・暦の下段を知る事／知死期時／新衣服着初吉方／六十乃図〈以上36点〉

6『永壽百人一首實蔵』（文化９年　1812ごろ刊か　須原屋茂兵衛他）

琴のくみ／夢うらなひ／七夕哥づくし／御所ことば／男女相性／万折かたの図〈以上６点〉

７－１『若鶴百人一首』Ａ（文化10年　1813刊　松林堂水野慶次郎他）

小野小町一代記／「十二ケ月異名」／女年中用文章／源氏香の図・引歌／三十六人歌仙／香の聞やう／香の銘／黙香の方／琴の事／双六の事／三味線の事／鏡の由来／万葉巻頭の和歌／扇歌書き様／秋の七草／六歌仙／歌読方指南／松島八景／七夕歌尽／古今秀歌／島台の図／三鳥の伝／六十図／「四季の図」／女大学（ａ女今川　ｂ古今和歌集十二月の和歌　ｃ女手習教訓状　ｄ「筆の説明」　ｅ都路往来　ｆ以呂波三体　ｇ書初の詩歌　ｈ七夕詩歌　ｉ四季の文　ｊ女の文封じ様　ｋ小笠原流折型の図　ｌ女中名頭字　ｍ大日本国尽　以上『女大学』の合刻）／生年守本尊／小笠原流折型／男女相性の事／女の名尽／手習いの図〈以上30点〉

７－２『若鶴百人一首』Ｂ（文化10年　1813刊　松林堂水野慶次郎他）

小野小町一代記／「十二ケ月異名」／女年中用文章／六十図／「四季の図」／書初の詩歌／七夕詩歌／四季用文章／鏡の由来／人間生涯の祝儀／男女名頭／六十の図／男女相性考／四悪十悪の事／新改正服忌令／源氏香の図・引歌／産帯要録／掛香の方／しみものおとし／染め物秘伝／諸病妙薬／七夕祭の事／女中詞の事／知死期時／新衣服着初吉方／十二月の和名／琴三絃の事／琴の名所／三絃の名所／うんこう日／うけむけの事／守本尊を知る歌／不成就日の事／願成就日／女大学（ａ女今川　ｂ古今和歌集十二月の和歌　ｃ女手習教訓状　ｄ「筆の説明」　ｅ都路往来　ｆ以呂波三体　ｇ書初の詩歌　ｈ七夕詩歌　ｉ四季の文　ｊ女の文封じ様　ｋ小笠原流折型の図　ｌ女中名頭字　ｍ大日本国尽　以上『女大学』の合刻）／生年守本尊／小笠原流折型／男女相性の事／女の名尽／手習いの図〈以上30点〉

８『錦森百人一首萬壽鑑』（文化14年　1817刊　錦森堂）

三夕の歌／三十六歌仙之図／小笠原折形／御所言葉／俊成卿和歌四題／七夕和歌／和歌三神

像／近江八景図／女五性名字／筆の事／目録文書様／貝おゝひの事／「定家の略歴」／「六歌仙」／「玉川六首」〈以上15点〉

9『若松百人一首千代緑』（天保２年　1831刊　西宮新六原版）

和歌三神図／和歌の始の事／小倉山荘の景并略伝／六歌仙／七夕由来並和歌／三夕の図並和歌／女今川雲井の鶴（女今川教訓状）／女中文の封じ様并上書／小笠原流諸色折形図／十二支並十二月の和名／知死期時くりやう／不成就日／うんくわう日の事／願成就日〈以上14点〉

10『今様百人一首吾妻鏡』（天保６年　1835頃刊・永楽屋東四郎）

住吉の図／書・画・琴・碁の図／小笠原流折形図／女中諸礼指南／琴・三味線の図／給仕の心得／本朝勝景并和歌／いろは教訓和歌／七種の哥／日月星三光の和歌／朝昼夜三時の和歌／新三十六歌仙／和国賢女絵伝／女中御所詞／婦人いましめ草／女中名の字／男女一代守御本尊／御改正服忌令／大不成就日の事・願成就日の事／古今集六義の和歌／「衣通姫の図・和歌」／書初の詩歌／五節句由来／進物積様之図／「読・書・織・縫の図」／御厨子黒棚錺様式法／四季小袖衣桁荘図／「清少納言簾を上げる図」／読み書き・和歌・香・茶の説（図）／七夕歌／『女今川』（ａ鏡の由来　ｂ女宝化粧具始　ｃ婦人産養口伝　ｄ当世染物秘伝　ｅ万しみ物おとし　ｆ弘法大師四目録の占　ｇ女中日用雑書　ｈ手ならひの事ならびに文書事　ｉ仮名遣ひの事　ｊ女ことば遣ひの事付たり大和言葉　ｋ祝言のしだい　ｌしふげん道具の次第　ｍしふげん座の次第　ｎしふげんの夜ぜん　ｏくいものゝしだい　ｐ哥をよみ習ふ事付哥書をしる事　ｑ箏をたんずる事并名をしる事　ｒ絹布類〈以上17項は『女今川』の合刻部分〉）／百人一首読曲并五ケの秘歌の事／三十六歌仙之図／源氏五十四帖引歌・香の図／源氏物語哥図／手習し玉ふべき事／いろはのはじまり／片かないろは／裁物の口伝／哥読方心得の事（和歌修辞）／歌仙貝の図／近江歌聖　俊成卿　定家卿（略伝・像・和歌各一首）／瀟湘八景の和歌／婦人一生重宝記／近江八景の和歌／五節句の和歌／十二月の和名〈以上36点〉

11『菊寿百人一首千代松』（天保10年　1839刊　山本平吉）

百人一首よみくせ／「白拍子湯谷の話」／「性空上人の話」／「西行・遊女妙」の話／「遊女初君・為兼の話」／三十六人女歌仙／女諸礼躾方（ａ菓子の食ひやう　ｂ湯づけ食ひやう　ｃ通ひの事　ｄ茶を飲む事　ｅちまき食ひやう　ｆ「三宝持ち方」　ｇ「酒勧め方」　ｈ「戸障子開け閉め」　ｉ「座敷の作法」　ｊ「双六盤」　ｋ「伽藍の焚き方」／七夕歌尽／万物文包様・折型図／髪結様・わげ名／清明夢合／「十二月異名」〈以上12点〉

12『若鶴百人一首』（弘化３年　1846刊　山崎屋清七）

女一代心得艸／女食事の作法／五節句の故事／草紙物語の作者／七夕歌づくし〈以上５点〉

13『花鶴百人一首錦箱』（弘化３年　1846刊　青雲堂　英文蔵）

三十六歌仙／女今川／六歌仙／七夕歌づくし／女中必用心得艸／女中名づくし／小笠原流折形／源氏五十四帖引歌・香の図／登龍丸（喉の薬の広告）〈以上９点〉

14『百人一首女訓抄』（嘉永元年　1848・須原屋・山城屋・永楽屋・など刊）

須佐男命御歌／「なにはづ・あさかやま」の歌／和歌二聖／六歌仙・古今集之歌十二首（各月・

絵あり)／源氏物語引歌・香の図／紫式部像／かいこやしない草（～十二絵あり)／近江八景／婦人つれづれ草／伊勢（古今集女流歌人・伊勢物語作者の説あり)／伊勢物語図（三面)／三光和歌／定家像〈以上14点〉

15『女訓玉文庫』(安政５年　1858　吉田屋文三郎板)

桜の図／住吉明神和歌／士農工商の図／女房和歌の遊びの図／和歌三神の図／源氏香の図・引歌／双六の事／三味線の事／琴／十二月の異名／六歌仙／檀林皇后／衣通姫／小野小町／待宵侍従／柴田勝家の事／鏡の由来／香道具の図／名香品目／香道の事／結び燈台の事／火所ごとくの事／燧袋の事／歯黒の事／女の眉とる事／松島八景／男女相性の事／汐の満干の事／三十六人歌仙／願成就日の事／不成就日の事／女大学（ａ女今川　ｂ古今和歌集十二月の和歌　ｃ女手習教訓状　ｄ「筆の説明」　ｅ都路往来　ｆ以呂波三体　ｇ書初の詩歌　ｈ七夕詩歌　ｉ四季の文　ｊ女の文封じ様　ｋ小笠原流折型の図　ｌ女中名頭字　ｍ大日本国尽　以上『女大学』の合刻)／男女相性生尅の事／女文の封じやう／十干十二支〈以上28点〉

16『金葉百人一首九重錦』(天保年間・明治刷か・河内屋岡田茂兵衛刊)

序／紫式部・石山寺の図／東山眺望の図／亀戸天満宮聖廟の図／住吉の浦・潮干狩りの図／貝桶の図／『女今川』(女実語教を合刻)／三十六人歌仙／琴の事／双六の事／三味線の事／鏡の由来／卒塔婆小町／橘媛／産前産後身持心得／産前よき食物／同禁もつ／産後よき食物／同禁物／忌もの／産屋の心得／人間生涯の祝儀／年中祝ひ日々の事／二十四孝絵抄／衣類たちぬひ指南／しみ物おとし様／衣服たつ心得／『女大学』(ａ手習の事　ｂ女躾状　ｃ貝原篤信娘へのさとし状　ｄ同息女の返事　ｅ世継草　ｆ桜文章　ｇ梅文章　ｈ女教訓冥加状〈以上８点は『女大学』の合刻部分〉)〈以上28点〉